

## 大学4年間を振り返って

生涯教育専攻4回生 高畑 教雄

高校を卒業して4年が経ち、私もとうとう大学卒業です。4年間という期間は非常に長いようで、振り返ってみるととても短く感じるものでした。しかし、短いように感じた大学生生活は、とても充実していて、多くの思い出を残すことが出来ました。その中で感じたこと、学んだことは多く、その経験を通して今の私がいることをとても実感しています。その大学生生活も終わりを迎えようとしている今では、大学での思い出を思い出すことが多くなりました。ここでは、私の大学4年間を振り返ってみたいと思います。

最近はおたたくなくなり、春の匂いがし始め、私が大学に入学したころのことを思い出します。大学に入学したばかりのころ、これからどんな大学生生活が待ち受けているのかとワクワクという気持ちではなく、不安ばかりであったことを覚えています。なぜなら、私は「理想の大学生活」や、「大学に入っていっぱい遊びたい」、「こんな勉強がしたい」といった大学への目的が全くなく、大学とはどういう場所なのか、大学生活では何をしたらいいのか、将来の自分自身はどうなっているのかといった、不安ばかり考えていたからです。不安で始まった大学生活。しかし、私が大学で楽しみを感じ始めるのに時間はかかりませんでした。それは、1年の初めにあった生涯合宿に参加して、とても楽しく、また生涯教育の先輩が仲良くしてくれたからでした。今までの私は人前に出ることが好きではなく、自分から行事に参加することは全くなかったのですが、そこから行事に参加することの楽しさを感じることができ、そこで知り合った友人や先輩などの影響で学科会にも参加するようになりました。こうして、天理教行事や自治会行事などにもどんどん参加していったことで、知り合いが増えて、大学生活が楽しいものとなっていきました。また大学生活では行事に参加して楽しむばかりではなく、3年生のころには生涯合宿の責任者を任せられたり、また学科会では副会長という役職に付いたりして、行事を作っていく立場にもなり、「人のためを考える、人を楽しませる」といった経験もすることが出来ました。大学3年生までに多くの行事に参加し、人との関わりも持つことが出来て、つらいこともありましたが、とても楽しく、充実した大学生活を送ることが出来ました。

そして大学4年生の1年間というのは、私にとって大学生活の中で、もっとも忙しく、大変な期間でした。その1年はまず就職活動から始まりました。就職活動は企業に自分を売り込みに行くようなものだったので、私という人間を人に説明できるようにならないといけませんでした。これまで自分のことを人に伝えるということをしたことがなかったので、生まれて初めて今までの自分の人生を振り返り、自分自身を真剣に見つめ直すことで自分を知る努力をしました。そこから、自分自身の長所や短所、これまでの経験から自分の性格・考え方などを知ることが出来ました。また企業説明会などに行くことで、社会人の方と接する機会や他大学との大学生とも話し知り合う機会もありました。何十社の選考を受け、いつ内定を頂けるか全く分からない先が見えない就職活動は、成長したと感ずることばかりではなく、正直つらいと感じることや嫌に思うことも少なからずありましたが、何ヶ月もの期間をがむしゃらに頑張った中、内定を頂けた時にはとてもうれしくて、大き

な達成感を感じることができました。私にとって就職活動は大きな苦しい壁であり、それを乗り越えたことで、自分の将来と真剣に向かい合うことができ、新しい自分の発見ができたことなど、今までの自分自身を大きく変えることができました。

次に取り組んだのは、半年もの時間を費やした天理大学祭です。就職活動も4月に終わり、時間があり、楽しそうだからという気持ちで参加しました。4年生にこの天理大学祭に関わると卒業論文が書けないと先生方は思っておられるようで、私は最初そんなことないと思っていたのですが、この天理大学祭は夏休み期間も毎日学校に行ったり、週に1回の会議があったり、帰る時間は毎日夜になったりと想像以上にハードスケジュールで、やらなければいけないことが山ほどあり、卒論と大学祭を両立しようとしていた私の考えは甘いということに気づきました。私は何の見返りもない大学祭というもののために長い時間を費やし、卒論やアルバイトにし支障をきたすことがつらく嫌に感じることもありましたが、ともに大学祭を作り上げていった友人たちがいたから、逃げずに一生懸命取り組むことが出来たと思います。どんな嫌なことや、面倒なことでも、「人のために」という思いで逃げずにやり遂げることが出来た貴重な経験でした。何よりもこの大学祭では、みんなと一緒に一つのものに向かって一生懸命に頑張ることで、人との絆を深く結ぶことができ、人とのつながりの素晴らしさを強く感じる事が出来たのが私にとって最も大きな経験でした。

大学祭が終わるとすぐに卒業論文作成に取り掛かりました。大学祭で遅れていた分を取り戻そうと必死で、ゼミの担当の先生に「死ぬ気で頑張ります」といったことを覚えています。最後の一月は研究室にこもって、朝から夜遅くまでパソコンに向かって作業しました。大学4年間の集大成だけあって、これまでで一番つらく、苦しかったと思います。「死ぬ気で頑張ります」の言葉が、どれだけ重い言葉であるかを痛感しました。「あきらめずに最後まで走りきる」この時私が何度も何度も頭の中で繰り返していた言葉でした。投げ出したくなることは何度もありましたが、一ヶ月半の期間を必死に走り続け、生涯教育の先生方の助けや、一緒に卒論を頑張った友人の支えもあり、心折れずに卒論を完成させることが出来ました。卒業論文を通して、私はどんなに高く苦しい壁でも、あきらめずに最後までやりとおすことの大切さを感じました。

この1年は自分にとってつらいことの連続でした。しかし、つらい経験をし、それを乗り越えるたびに、大きな達成感を感じ、また自分自身が大きく変わったと感じています。今の私にとってこの1年はとても貴重な経験で、自分が変わったと感じた強烈な期間だったと思います。

長々と私の大学4年間を書いていったのですが、今私が思うことは、大学とは多くを経験でき自分自身を大きく変える場所だということです。今回こうして振り返って考えてみると大学を入学した時の自分と卒業間近の今の自分とでは大きく変わったなと感じます。私はこの大学で身に付けたことをもってこれから社会に出ていくこととなります。それだけに大学4年間という期間での経験は非常に重要になると思います。在校生の皆さんも大学生の間に自分から行動して、多くを経験し、大きく成長して行ってください。

最後にこの天理大学での4年間はほんとに楽しく、最高の思い出を作ることができ、それはこの大学で関わった多くの人たちのおかげです。最高の4年間を過ごせたことを皆様に心から感謝しています。4年間本当にありがとうございました。